

「紡ぎの庭」誕生をめぐって

NPO 法人つくばアーバンガーデニング 理事長 井口百合香



2013年現在、筑波メディカルセンター病院（以下、TMC）を訪れる方は、レンガをめぐるサークルに季節の花が咲きみだれる美しい風景を、あたり前のようにご覧になることでしょう。しかし、ここ「紡ぎの庭」は、5年前、多くの人の努力の結晶で生まれたものです。

2008年4月、稲葉TMC事務局長が、私どもNPOつくばアーバンガーデニング（以下、TUG）を訪ねて来られました。TMC本館の改装工事が終わり、もうすぐオープニングを迎えるが、建物前のペデストリアンデッキが荒れてみすばらしい。花を植えて、雰囲気良くできないだろうか、というご相談でした。

ペデを楽しい場所に、というのが、TUGの長年の夢でしたから、そのお話はとても嬉しいものでした。まず管理者である市から手入れをする許可をもらわなくてはなりません。その上で、TMCとTUGが力を合わせて、雑草取り、土作り、花壇デザイン、花苗の手配と大車輪で取り組み、1週間もたたないうちに、初の花植えの日を迎えることができました。

美しくなったペデには、早速、患者さんたちがくつろぐ姿が見られるようになりました。

花を植えたのは5サークルだけでしたが、このあたり一帯のペデを花でいっぱいにして、患者さんも市民も元気になる交流の場にできないだろうか。こう思ったのは私だけではなく、花が大好きで、花の持つ癒しの力をよくご存知の中田代表理事、稲葉局長も同じように感じておられました。

それには大規模な工事が必要で、お金もかかります。そこで、第一生命と都市緑化基金主宰「緑のデザイン賞」への応募を提案しました。この賞は「緑豊かな都市環境の形成」を目的に、優れた緑のデザインに与えられる賞で、副賞として施工費（最大約800万円）が助成され、それだけにハードルの高い賞です。早速「紡ぎの庭」検討会が発足。

TMC、TUG関係者に、蓮見孝、渡和由両教授指導による筑波大学「アート・デザインプロデュース演習」の学生10名、小木野貴光（一級建築士・筑波大修士課程修了）、岡田新一建築設計事務所（TMCの新築・改修設計担当）が加わりました。

このメンバーが、朝に夕に手弁当で集まって、学生たちが用意したプランの検討を重ねること10数回。8月の締め切り間際には、学生たちはもちろん、手助けする専門家たちも徹夜を重ね、その甲斐あって素晴らしいプレゼン資料が完成しました。

そして10月、中田代表理事の「入賞するに違いない」という信念どおり、「緑化大賞受賞」の報が届いたのです。プランの優秀さと共に、都市計画史上、重要な意味を持つ研究学園都市の緑道を、病院を初めとする多様な主体が連携して再生しようとするコンセプトが、高く評価されたそうです。

3月末、無事工事が終了し、完成した花壇に花を植える喜びの日を迎えることができました。

完成後も、「紡ぎの庭」は、TMCの皆さんの日々の見守り、TUGガーデナーの定期的な手入れ、季節ごとの花植えへのボランティアさんの参加、就労支援施設ひまわり学園や来夢ハウスのメンバーによる灌水など、その名にふさわしく、様々な人たちが結びつく場となっています。何よりも、「難病で入院した高齢の父が美しい花にも勇気づけられ、元気になって退院した」など、花が患者さんたちを慰めた多くの事例を耳にします。そのことが共感を呼び、多くの企業や個人の方から維持費用のための寄付が集まっていることも素晴らしいと思います。

これからも、多くの人の努力で生まれた「紡ぎの庭」が美しい花を咲かせ続け、人々の和を紡ぎ続けるようにと祈っています。